

**2月15日開催第14回『新しい資本主義実現会議』提出資料**

東京大学 柳川範之

**社会全体を大きくバージョンアップさせる必要：新しい資本主義**

一時的な賃金引上げだけではなく、  
付加価値生産性の上昇によって持続的に賃金が上昇し、  
人々がより生き生きと働き、生活できる社会へ

そのためには

**日本社会の、今までの働き方・能力開発のあり方を大きく見直し、  
企業と従業員・個人との新しい関係性を構築していくことが求められる。**

いままでは

- ・平等志向：生産性の違いほどには、賃金は変化しない  
リスクシェアリングにはなる。企業内でのある種の保険提供だった。  
しかし、今や、外部に高賃金機会がある人は、会社を移ってしまう  
多くの企業で限界に
- ・長期安定：将来の安定雇用が保証されるので、低賃金でも我慢する  
環境変化が激しくなり、企業はそこまでの将来保証が難しく
- ・企業任せの能力開発：言われた能力を身に着ければ将来が保証される  
セカンドキャリアや転職の可能性含め、本人にとって望ましい  
能力が十分に身に着けられるとは限らなくなってきた

**今までとは違う関係性が必要に**

より具体的には

- ・環境変化に合わせて、社内だけに留まらず、より適材適所に人が動ける環境
- ・個人が主体となって、将来を見通した能力開発、リスクリングができる環境
- ・人材育成プランを明確にし、リスクリングをサポートし、人をひきつける企業  
が求められる

## 具体的ポイント：

- ・ 国の学び直し支援は、もっと個人向けに重点をおいたものにすべき  
個人を主語して、個人が主体的に必要な人的投資を行っていくことが、  
社会全体にとっても必要
- ・ 職務内容の明確化：  
この仕事・このポジションにつくには、どんな能力・どんなスキルが必要  
なのかを明確にする  
そうでないと、どんなスキルを身につけるべきなのか、どんなリスキリン  
グが必要なのが描けず、リスキリングのモチベーションを持ちにくい
- ・ 人材育成プランの提示：  
将来どういう人材に育てるつもりなのか、そのためにどんな経験や教育  
をさせているのか、させるつもりなのかを従業員に提示する  
そうでないと従業員側は将来プランが描けず、安心感が得られなかったり  
興味が持てず離職したりする
- ・ 個人のプランニングのサポート：  
いきなり自分でプランを立てろと言われても、なかなか難しい。  
将来を見据えたキャリア設計、スキル獲得プランをサポートする  
サービスが必要
- ・ 「居場所」や「コミュニティ」の確保  
人材が企業間を移動しやすくなる場合にも、企業に代わる、  
居場所やコミュニティがないと、精神的な安定性が得られにくい。

## 第 12 回提出資料より

- ・ 労働移動の円滑化、学び直し・リスキリング等の人への投資は、日本経済にとって、とても重要なポイント
- ・ 学び直し支援において、個人向けの支援が少ないのが、大きな課題  
しっかりと財源を確保し、ここを強化することが重要
- ・ 学び直しを考える際には、そのための適切なプログラム開発も不可欠
- ・ 日本においては特に、兼業・複業を通じた学び直し  
兼業・複業を通じた労働移動が重要になる